

はじめに

少子高齢化やグローバル化が進む中、まちの暮らしを  
 持続的に支えていく新たな仕組みづくりが求められ、地  
 域資源を活かしてコミュニティの力を育んでいくまちづ  
 くりが各地で模索されている。いわゆる、ソーシャル・キ  
 ャピタル（社会関係資本）の価値を見直し、暮らしの中に  
 再度組み込んでいこうとする動きである。しかし、個人化  
 や多様化が進む現代の暮らしの中で、人と人と場所

大阪・上町台地発  
 都心居住文化の創造へ  
 (第16話)

ソーシャル・キャピタルの形成へ(2)  
 ー外部のネットワークを地域資源に  
 つなぐ、減災文化へのアプローチ

の交流を促し、新たなつながりを築きあげていく試みとし  
 て取り組んでいるのが、当連載第12話以降で紹介している  
 大阪ガス実験集合住宅NEXT21での、地域コミュニティ  
 ションデザイン実験「U・C・O・R・Oプロジェクト」(※1)であ  
 る。建物一階の小スペースのガラスウォール(ウインドウ)  
 を活用した、展示プログラム等の展開を通して、地域で活  
 動する多様な主体や地域資源間のネットワークの補完と  
 拡張に働きかける、まちかどのミクロな社会実験として、  
 コミュニティ・エンパワーメントの可能性を追っている。  
 前回第15話では、同プロジェクト1年目の評価をふま

弘本 由香里

written by Yukari Hiromoto

の関係を再構築していくためには、従来の枠組みを超え  
 るまなざしや知恵が欠かせない。そこで、地域資源から発  
 想する、新たなつながりのデザインのありようが求めら  
 れることとなる。

当連載がフィールドとしている大阪の都心部・上町台地  
 界隈は、これまでも繰り返し紹介してきたが、多くの長屋  
 が残るまちや寺々が軒を連ねるまち、民族的マイノリテイ  
 が集住するまち、時を重ねたコミュニティに新しいマンシ  
 ャン群が生まれたまちなど多様なエリアの存在と地域資  
 源の集積がある。その集積を基盤として活かしながら人々

え、2年目のプログラムの課題設定と具体的アクション  
 及びその成果を報告した。プロジェクトの背景やプロセ  
 スの可視化による関心の喚起と、参加のインターフェイ  
 スとコミュニケーション手法の多様化による能動的な関  
 与の可能性の拡大という2年目の課題に対して、ウイン  
 ドウ展示第5回「上町台地となにわ伝統野菜物語」(20  
 08年5月19日～8月29日(※9月12日まで展示延長)と、  
 並行展開した同時多発型の栽培プロジェクトの仕掛けが  
 物語る意味や、個々の経験をつながりとして共有してい  
 くコミュニケーション・ツールの役割などに触れた。

今回第16話では、同プロジェクト1年目に築いたネットワークと地域資源の蓄積を強みとしながら、地域に潜在する大きな課題の一つ、災害リスクの軽減に向けた「減災」への意識と行動のエンパワーメントに着目する。そのため導入したプログラムの展開と、地域での連鎖的な動きの生成について簡単にレポートする。

## 減災文化への楔を地域資源に打ち込む

2007年11月、内閣府の中央防災審議会が内陸型直下地震の被害想定を公表した。その際、国内最大級の被害を想定されたのが、大阪の上町断層である。上町断層は大阪府の北部から南部に続く断層帯で、その中心部に大阪市内を南北に走る上町台地が位置している。上町断層と上町台地は、にわかには全国の注目を集める存在となった。

しかし、上町断層が直下にあるとはいえず、この数十年大きな災害からしばらく遠ざかり、また歴史・文化資源の集積とともに、公園や緑地にも恵まれ、学校や病院も数多く、大阪における都心居住の適地とされる上町台地境界では、居住者の災害に対する感度が高いとは言いがたい状況がある。一方で、地域の安心・安全を支えてきたコミュニティは、高齢化や世帯の小規模化、マンション居住者の急増等を背景として、相対的にその力の及ぶ範囲に限界を生じつつあり、地域における潜在的な災害リスクは高まっているといっても過言ではない。

こうした状況に対して、U-CoRoプロジェクトを介して、地域資源の中に減災への気づきを誘発する楔を打ち込んでいくことができるか、というのが減災プログラム設定の最大の動機であり狙いである。その第一歩として、全国各地の被災地との関わりを持つ地域外の専門家を上町台地につないでいく試みに取り組んだ。端緒と

なったのが、同プロジェクト1年目のウィンドウ展示第3回「いのちをまもる智慧」を伝える減災に挑む30の風景と上町台地災害史」（2007年9月3日～12月28日）（※2008年1月18日まで展示延長）である（図1）。

当連載第12話でも簡単に紹介しているが、「いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景」（※とは、各地の災害救援や復興支援に力を注いでいるキーパーソンによる協働プロジェクトで、全国19地域、約70人の方々のインタビューから、30の温もりのある風景（ストーリー）として、いのちをまもる智慧を描き出しているものである。制作者たちは、災害から得られた知恵をあえて「智慧」と書いている。教訓を知識に留めず、日（い）うこと、立場を越えて広く伝え、共有することによって「智慧」となるという願いが込められている。それらの「智慧」は、いずれもその土地に生きる「智慧」、風土との関わり方としての生活文化そのものである。U-CoRoでは、全国から集められた風景（ストーリー）と智慧の展示とともに、上町台地の災害史を振り返る展示も行い、あわせて同ストーリーブックを周辺の寺社や地域の文化拠点数箇所に設置するとともに、地域外の減災の専門家である制作者たちと地域のキーパーソンとしての読者たちが語り合うイベントも実施した。上町台地で智慧を受け止め生み出していくための、一つの足がかりとなる楔を打ち込む仕掛けである。

この小さな楔から生み出されていった出会いと気づきは、翌年からさまざまな形で上町台地境界での新たな減災の取り組みとリンクしていく。一つは、U-CoRoサイドから積極的に地域の中に入れていくツールとして、減災ゲームを活用した展示プログラムの導入



図1 U-CoRoウィンドウ・エキジビション03「いのちをまもる智慧」を伝える減災に挑む30の風景と上町台地災害史」展示風景



図2 「上町コロコロ新聞 減災特集」が伝える、「ロジモク減災勉強会」や「防災てらまちトーク&ウォーク」の様子など



である。もう一つは、地域の側からの減災への自問の動きの立ち上がりである、空堀界隈で長屋再生に取り組み「からほり倶楽部」による「ロジモク減災勉強会」や、下寺町の若手僧侶の会「三帰会」による「防災てらまちトーク&ウォーク」などが相次いで行われていった。さらにもう一つが、地域外の専門家と地域の協働プロジェクトとして、「いのちをまもる智慧」制作委員会事務局の「特定非営利活動法人レスキューズストックヤード」が主催した「減災キャラ

バン on 上町台地」である。これら一連の動きを、U-CORO プロジェクトのコミュニケーション・ツール「上町コロコロ新聞 減災特集1号〜3号」で紹介し、智慧の共有を図っている(図2)。

### ゲームを入り口に 内発的な減災意識の喚起へ

U-COROプロジェクト1年目に実施した減災の展示プログラムで受け止めた気づきを、上町台地界隈に根付かせ広げていくために、U-COROサイドから積極的に地域の中に入っていった展示プログラムが、第6回「減災ゲームで気づく上町台地の暮らしいろいろ」※3(2008年9月16日〜2009年1月23日)である。その概要を簡単に眺めておこう。同プロジェクトを担当している、筆者による資料から抜粋紹介する(図3〜4)

#### ●企画の趣旨

もしも上町断層が動いたら…。想像するのは容易ではありません。けれど、一つの入り口があります。一枚のカードから、そこに身を置いてみることでできるゲームです。上町台地ならではの、お寺が並ぶあちまちで、多文化が息づくあちまちで、長屋が残るあちまちで、新しいマンションで、時を重ねたコミュニティで…。浮かび上がるさまざまな声。減災・防災への想像力は、台地とともにまちに生かす会が発見への入り口でもあるようです。(後略)



図3 U-COROウィンドウ・エキジビション06「減災ゲームで気づく上町台地の暮らしいろいろ」展示風景

●主な展示内容

◎上町台地の風土特性と災害リスク

(上町台地の立体模型／土地条件図／地震・水害のハザードマップ)

上町台地には、小さな谷や尾根、坂や崖など細かな地形がたくさん刻まれています。また、人為的に削られた尾根や埋められた谷も数多く存在しています。周辺の平野部にも、数十センチ単位の高低があります。ほんの小さな地形や土地の成り立ちの違いによって、自然災害が生じる可能性や被害の大小が左右されることがあります。上町台地の微細な地形まで感じ取ることのできる「立体模型」や、土地の成り立ちを読み取ることのできる「土地条件図」、地震・水害の「ハザードマップ」をご覧いただきながら、暮らしを支える台地の風土特性と身近な環境に潜む災害リスクに思いを馳せませす。

◎上町台地界隈

減災ゲーム「クロスロード」ドキュメント

(もしも…の場面で、多くの人はどんな選択を?)

被災体験をもとにつくられた減災ゲーム「クロスロード」(※4)のクエッションカード。無作為に選んだ問いをもとに、災害時に直面する数々のジレンマ、いろいろな立場に身を置きかえて、より多くの人の判断や行動を想像してみます。上町台地には特有の地形や土地の成り立ちと一体で育まれてきた暮らしとともに、特徴のある住環境が集積しています。たとえば、お寺が並ぶまち、多文化が息づくまち、たくさんの方の長屋が残るまち、新しいマンション群、時を重ねたコミュニティなど。上町台地界隈の5つの場所「からほり・練」、「下寺町・應典院」、「NEXT21」、「五条界隈(五條公園会館)」、「コリアNGOセンター」で

クロスロードを体験してみました。浮かび上がってくるさまざまな声、価値観や暮らしに潜む課題。たくさんのおぼやきの中から、一部をドキュメントとしてご紹介します。

◎さまざまな減災ゲームや教材の紹介

(カードゲーム、すごろく、カルタ、

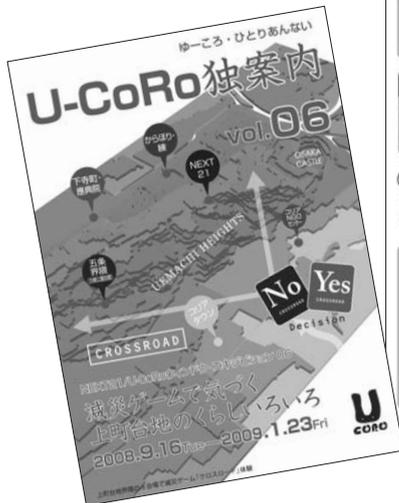
紙芝居)

日常の暮らしの中で、非日常の災害の場面を想像したり、減災の智慧を身につけたりしていくことは、案外難しいものです。そこで身近で親しみやすい入り口として考案されたのが、減災ゲームや教材です。クロスロードのほかに、命を守る姿勢を学ぶ幼時向けのカードゲーム「ぼうさいダック」、大人から子どもまでいっしょに楽しめる防災すごろく「GURAGURATOWN(ぐらぐらたうん)」、家族で防災1年間「防災すごろく・大ナマジン」、災害時にとっさの行動を身につける防災紙芝居「みんなのみかたぼうさいマン」、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸市長田区御菅(みすが)地区のみなさんがまちへの思いを込めてつくった「御菅カルタ」をご紹介します。

同展示プログラムの最大の特徴は、受け身の防災知識から主体的な減災文化への転換の入り口を設ける試みとして、阪神・淡路大震災の被災経験から開発された減災ゲーム「クロスロード」を活用している点にある。そして、展示の仕込み段階に上町台地界隈の5会場(下寺町・應典院、N



図4 U-CoRo独案内 vol.06 (減災ゲームで気づく 上町台地の暮らしいろいろ)



U・C・O・R・Oサイドからの仕掛けによって、地域に芽生えてきた減災への自問に、地域外の専門家のまなざしを投げかけていくことよって、その問いはさらにエンパワメントされていく可能性を持ち得るはずである。

とはいえ、被災経験のないものが、リアルにその時を想像するのは容易なことではない。日常の中でいつ起こるとも知れない災害の脅威に想像をめぐらすのは大変なストレスでさえある。災害の教訓を、世代を越えて伝え続けるていくのはなおさら難しい。だからこそ先人たちは、暮らしの折節にさまざまな祭りや年中行事を織り込み、地域に根差した物語を息づかせながら、時を越え、世代を越えていのちのつながりに思いを馳せる感性を育んできたの

### 生活文化としての 減災文化を育む地域資源

「災害時にお寺にできることは…」、「密集住宅地に囲まれた学校は地震・火災時にどうなる…」、「長屋のまちを未来に継承するために…」、「マンションで非常時に知恵と力を合わせるには…」、「これまでの防災研修では得られなかったものが…」といった、終了後の感想がその変化を物語っている。

EXT21、からほり・練、五条界限、コリアNGOセンターで、「クロスロード」のワークシヨップを行い、そのドキュメントとともに上町台地の風土特性と災害リスクに関する展示を行っている。身近なゲームを入り口としながら、日常にあつて個々の暮らしとまちの関係をリアルに見つめ、減災への内発的な意識を喚起していく試みである。

固有の地域特性を持つ5会場で、クロスロードを通して浮かび上がってきた声は、正解のない問いへのとまどいに始まり、やがて自らへの具体的な問いに転じていった。「災害時にお寺にできることは…」、「密集住宅地に囲まれた学校は地震・火災時にどうなる…」、「長屋のまちを未来に継承するために…」、「マンションで非常時に知恵と力を合わせるには…」、「これまでの防災研修では得られなかったものが…」といった、終了後の感想がその変化を物語っている。

ではないだろうか。と考えれば、暮らしの傍らにあつて、こうした生活文化を支える拠点として営まれてきた、寺院や神社や文化施設は、間違いなく地域の減災文化を創造していくために欠かせない大切な資源の一つである。

2009年2月、1カ月間に渡って、大阪・上町台地界隈にある寺院「應典院」と神社「高津宮」、お屋敷再生複合施設「練」と市民立の「直木三十五記念館」のある複合文化施設「萌」を巡回する「減災キャラバン on 上町台地」(主催:特定非営利活動法人レスキューストックヤード、共催:大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、應典院、高津宮、からほり倶楽部ほか、協力:CEL/U・C・O・R・Oプロジェクト・ワーキングほか)が開催された。U・C・O・R・Oのウィンドウ



図5 「上町コロコロ新聞 減災特集」が伝える、「減災キャラバン on 上町台地」の様子など



展示でも紹介した『いのちをまもる知恵 減災に挑む30の風景』のパネル展示と関係者によるリレートークが4会場を舞台に繰り広げられた。全国から集められた知恵の展示と並行して、その智慧を受け止める上町台地の場所性に応じ、「應典院」では「僧侶の覚悟〜いつか出会う被災死への向き合い方」、「高津宮」では「避難所の覚悟〜非難していく被災者への向き合い方」、「お屋敷再生複合施設・練」では「路地の覚悟〜長屋のまちでその日への備え方」、「複合文化施設・萌」では「対話の覚悟〜その日をともしする他者への向き合い方」をテーマに対話を重ねた(図5)。

それは、人と人、人と時間、人とまちを結ぶソーシャル・キャピタルとしての寺社や文化施設の価値を、減災の視点を設けることによって改めて見つめ直す機会ともなった。

## 第16話のおわりに

U-COROPプロジェクト1年目の成果と課題に基づきながら、地域に潜在する大きな課題の一つ、災害リスクの軽減に向けた「減災」への意識と行動のエンパワメントを狙いとしたプログラムの展開と、地域への波及の状況を一部ではあるが簡単に追ってみた。

減災には、災害前から災害発生を挟んで災害直後の救命・救援、続くライフライン等の復旧、そして長い復興の道のりへとさまざまな局面があり、それぞれの局面や地域特性によって求められる支援のあり方も異なる。そして、被災地の復興過程で共通して浮かび上がってくる教訓は、人と人の関係性を築くことの重要性、記憶や経験を共有していくことの重要性、それらを通して智慧を継承していくことの重要性である。翻ってそれは、災害前の減災のあり方にも通じるものである。特別なことではなく地域での日常を大切に豊かに生きることの中にこ

そ、生活文化としての減災文化があることを教えてくれるのである。地域外の被災地や専門家のまなざしを得ることによって、自らのまちや暮らしのありようへの問いが立ち上がり、行動が誘発されていく。

そこに、地域資源を活かしながら人々の交流を促し、新たなつながりを築きあげていく社会実験としてのU-COROPプロジェクトの意義と、まちの暮らしを持続的に支えていくための、ソーシャル・キャピタルのありようを展望することができる。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所客員研究員)

CEL

(※1) NEXT21第3フェーズ居住実験の一環としての地域コミュニティデザイン実験(U-COROPプロジェクト)の1年目の概要と評価は、季刊誌「CEL」83号・84号・86号・88号「大阪・上町台地発 都心居住文化の創造へ」(第12話〜15話)で紹介。  
[http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel\\_83\\_21.pdf](http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel_83_21.pdf)  
[http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel\\_84\\_21.pdf](http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel_84_21.pdf)  
[http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel\\_86\\_15.pdf](http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel_86_15.pdf)  
[http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel\\_88\\_20.pdf](http://www.osakagas.co.jp/cel/pdf/cel_88_20.pdf)

(※2) 監修:『いのちをまもる知恵』制作委員会、ストーリー/アートディレクション:花村周寛、イラスト:中村妙、解説文:吉椿雅道、編集協力:大阪大学CSCD・渥美公秀/関嘉寛/菅磨志保+名古屋大学・宮下太陽、発行:(特活)レスキューストックヤード

(※3) 主催:大阪ガスエネルギー・文化研究所(CEL)、共催:大阪大学コミュニティデザイン・センター、企画:U-COROPプロジェクト・ワーキング、協力(ワークショップ・情報提供等):上町台地からまちを考える会、大阪城天守閣、應典院、からほり倶楽部(特活)コリアNGOセンター、サロンドeありす(特活)和文化伝承協会、NEXT21入居者自治会、(有)富士原文信堂、松木伸江さん、(特活)プラス・アーツ、まち・コミュニティ・アクション、矢守克也さん、そのほかのみなさま(50音順)

(※4) 「クロスロード」は、災害時に起きる問題を自らの問題として考え、さまざまな意見・価値観の存在を参加者で共有することを目的としたカードゲーム。文部科学省の「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発されたもの。制作:著作:Team Crossroad チームクロスロード(網代剛、吉川肇子、矢守克也:50音順)